

論文審査の結果の要旨及び担当者

報告番号	博（医）甲第1232号	氏名	角田 圭司
論文審査担当者		主査教授	関根 一郎
		副査教授	兼松 隆之
		副査教授	森 望
論文審査の結果の要旨			
<p>1. 研究目的の評価 悪性グリオーマの増殖・浸潤の機序を解明する一環として、転写因子のひとつとされる NF-κB の関与を腫瘍組織標本を用いて検討しようとした研究目的は明確で評価できる。</p>			
<p>2. 研究手段に関する評価 脳腫瘍の組織標本の収集と選択、免疫組織学検索方法、ヒト神経膠芽腫細胞を用いての western blot 法、northern blot 法による NF-κB の発現の検討、さらにアンチセンスオリゴヌクレオチド、curcumin を用いての NF-κB の発現の抑制効果とその際の uPA(urokinase-type plasminogen activator)の活性化および遊走・浸潤能についての検討などにおける研究手段の選択とその手技は妥当であった。</p>			
<p>3. 結果・考察の評価 グリオーマ組織における NF-κB の発現は悪性度と相関して高くなること、アンチセンスオリゴヌクレオチドで蛋白レベル、mRNA レベルで NF-κB の発現が抑制されること、アンチセンスオリゴヌクレオチドと curcumin により NF-κB の活性化が抑制され uPA 活性化や遊走・浸潤能が抑制されることを明らかにした。これらはグリオーマの増殖・浸潤の機構解明に大きく寄与するものであり、今後治療面での応用の可能性もあり、高く評価できる。審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p>			